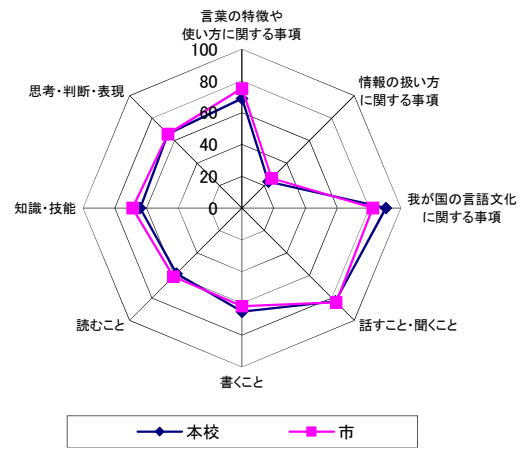


宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使いに関する事項	69.0	75.3	77.1
	情報の扱いに関する事項	23.6	26.5	27.8
	我が国の言語文化に関する事項	90.6	82.4	81.0
	話すこと・聞くこと	83.0	83.9	84.2
	書くこと	65.1	61.7	64.5
観点別	読むこと	58.2	60.9	61.0
	知識・技能	64.0	68.8	70.3
	思考・判断・表現	65.9	65.8	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

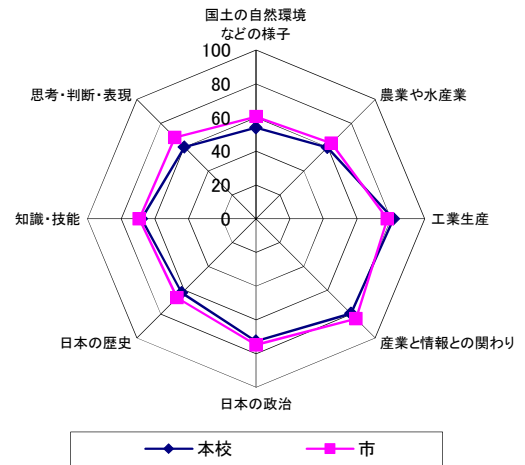
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>●本校の正答率は69.0%で、市の平均正答率を6.3ポイント下回っている。</p> <p>○段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く問題では、平均正答率が77.4%で市の平均正答率を10.6ポイント上回っている。段落を意識して文章を書く活動に多く取り組んできた成果が現れていると考えられる。</p> <p>●第5学年の漢字を書く問題では、全ての問題で市の平均正答率を17～29%程度下回っている。漢字を書く力に課題が見られる。</p>	<p>・引き続き構成を意識して文章を書く活動を多く取り入れ、段落の役割を理解して身に付いていけるよう指導していく。</p> <p>・漢字の小テストを繰り返し行ったり、家庭学習や自主学習などで漢字学習への取組を推奨したりして漢字の力を伸ばしていく。</p>
情報の扱いに関する事項	<p>●本校の正答率は23.6%で、市の平均を2.9ポイント下回っている。</p> <p>○与えられた資料を基に文章を書く問題では、3.8ポイント上回っている。39.6%と低いが、情報を理解し目的に合った文章を書く力が伸びてきていると考えられる。</p> <p>●情報と情報の関係を理解し、文章の情報を整理する問題では、正答率が7.5%で市の平均正答率を9.7ポイント下回っている。情報を整理する力に課題がある。</p>	<p>・情報を取捨選択したり、整理したりする力を高めるために、国語以外の学習でも、内容を要約したり、作者の意図を自分の言葉で文章化をしたりするなどの活動を意図的に学習を取り入れていく。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>○和語、漢語、外来語を区別する問題では、正答率は90.6%で市の平均正答率を8.2ポイント上回っている。</p> <p>○言葉の由来についての知識が定着していると考えられる。</p>	<p>・今後も、授業の中で取り上げたり自主学習への取組を推奨したりして、語句の由来や漢字の成り立ちなどに興味関心をもてるように支援していく。</p>
話すこと・聞くこと	<p>●本校の正答率は83.0%で、市の平均正答率を0.9ポイント下回った。</p> <p>○話の内容を捉える問題では、市の平均正答率を4.9ポイント、意図に応じて質問を工夫している問題では5.3ポイント高かった。</p> <p>●自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える問題では、市の平均正答率を12.9ポイント低かった。</p>	<p>・話をよく聞き、メモを取りながら内容を整理する習慣が身に付くよう継続して指導していく。</p> <p>・話の内容を深く読み取るために、要約する活動を行わせる。</p>
書くこと	<p>○本校の正答率は65.1%で、市の平均正答率を3.4ポイント上回った。</p> <p>○自分の意見とその理由を明確にして書く問題では、11.9ポイント市の平均正答率を上回った。指定された長さで文章を書く問題では6.1ポイント高かった。</p> <p>●予想される反論とそれに対する意見を書く問題では、市の平均正答率より15.1ポイント下回った。</p>	<p>・2つ以上の情報を整理し、関連付けてまとめ、文章に表す活動を継続して行っていく。</p> <p>・質問の内容を的確に捉え、自分の考えを理由を明らかにして文章に表す活動を増やしていく。</p>
読むこと	<p>●本校の正答率は58.2%で、市の平均正答率を2.7ポイント下回っている。</p> <p>○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げる問題では、市の平均正答率を6.0ポイント、文章全体の構成を捉える問題では、市の平均正答率を0.7ポイント上回った。</p> <p>●情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章の情報を整理する問題では9.7ポイント、登場人物の心情について、描写を基に捉える問題では、9.5ポイント下回った。</p>	<p>・話の内容を深く読み取り、登場人物の心情を捉えられるように、話し合い活動を増やしたり考えを表現したりする機会を設定する。</p> <p>・説明文を的確に読み取り、情報と情報を関連付けながら、文章を整理し、まとめる活動を増やしていく。</p>

宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	54.1	60.5	65.8
	農業や水産業	59.9	63.3	66.0
	工業生産	81.5	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	79.6	83.8	76.6
	日本の政治	72.7	74.9	74.1
観点別	日本の歴史	62.3	66.3	68.3
	知識・技能	67.9	69.3	71.4
	思考・判断・表現	60.1	68.1	66.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

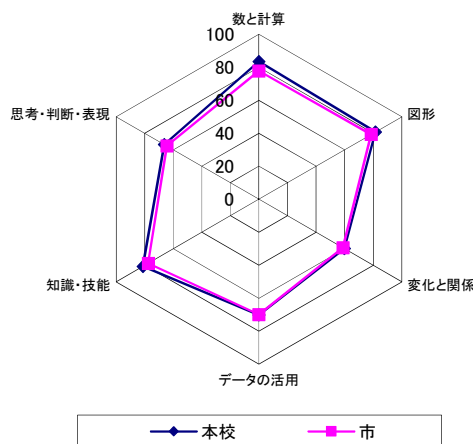
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<ul style="list-style-type: none"> ●全体の正答率が54.1%と、市の平均正答率を6.4ポイント下回った。 ●日本の周辺の海洋名を問う問題の正答率は9.5ポイント、雨温図から太平洋側の気候の特色を読み取る問題は9.1ポイント、市の平均正答率を下回った。 ○間伐について問う問題の正答率は83.3%で、市の平均正答率をやや上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国土の主な地形や国土周辺の海洋名などを繰り返し復習し、知識の定着を図る。 ・気候の指導の際に、気候の特色と雨温図の特徴をしっかりと照合させ、理解できるようにする。
農業や水産業	<ul style="list-style-type: none"> ●正答率が59.9%と、市の平均正答率を3.4ポイント下回った。 ○日本の主な食料自給率をグラフの推移を見て問う問題では、市の平均正答率を4.4ポイント上回った。 ●輸入などの外国との関わりにおける課題について問う問題では、市の平均正答率を17.2ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な資料を読み取る経験を通して、整理・分析し、正しいものを選択する力を高める。 ・知識の習得だけでなく、背景や課題など様々な知識を関連付けて包括的に考えることを通し、思考力や活用力を高める。
工業生産	<ul style="list-style-type: none"> ○自動車の製造工程についての理解は、正答率が94.4%で、市の平均正答率を4.2ポイント上回った。 ○自動車の部品を再利用する目的についての問題の正答率が88.9%で、市の平均正答率を3ポイント上回った。 ○日本の主な輸出品・輸入品についての問題の正答率が61%で、市の平均正答率を3.6ポイント上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図やグラフなどの資料を読み取る活動において、内容を整理したり資料同士で比較したりしながら読み取る力を高めるとともに、話し合う活動を通して、思考力の向上を図る。特に日本の輸出品・輸入品についてはグラフを読み比べる復習をする。
産業と情報との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ●産業における情報活用の現状について考える問題では正答率は63.0%で市の平均正答率を11.8ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の授業から情報をもとに予想したり、自分たちの生活と情報の関わりを気付かせたりして、正しい情報や理由を見出すことができるようにし、日常生活に活かせるようにする。また、関係する情報モラルについて指導する。
日本の政治	<ul style="list-style-type: none"> ●正答率が72.7%で、市の平均を2.2ポイント下回った。 ○平和主義の基本的な考え方についての問題で正答率が96.3%で市の平均を2.7ポイント上回った。 ●基本的な人権の尊重の基本的な考え方についての問題で正答率が75.9%で市の平均を5.4ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・復習用の教材を活用し、日本国憲法の内容や政治の仕組みについての知識の定着を図る。 ・あまり身近ではない項目については、新聞やニュースなどの話題を取り上げ、政治に興味をもたせるとともに、家庭学習等において、自主的な調べ学習を奨励し、学習内容の定着を図る。
日本の歴史	<ul style="list-style-type: none"> ●正答率が62.3%で、市の平均を4ポイント下回った。 ○鎌倉幕府の政治についての問題では、正答率が81.5%で市の平均を9.1ポイント上回った。 ○鎖国について資料を読み取る問題では、正答率が87.0%で市の平均を5.7ポイント上回った。 ●豊臣秀吉の政策についての資料を読み取る問題では、70.4%で市の平均を10.9ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史の出来事だけでなく、その背景や意図を十分に理解させた上で、知識の定着を図る。 ・まとめた新聞やレポート、スライド作りなどを通して、資料を活用したり、要点をまとめたりしながら、自分の言葉で表現する力を育てる。 ・自主的な調べ学習を奨励し、歴史的事象のつながりや相違点が生まれた理由などについて気付かせて学習内容の理解を図る。

宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	83.5	77.7	78.6
	図形	81.5	78.4	74.4
	変化と関係	59.7	58.7	53.0
	データの活用	70.1	69.9	57.2
観点別	知識・技能	81.3	77.5	74.0
	思考・判断・表現	66.3	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

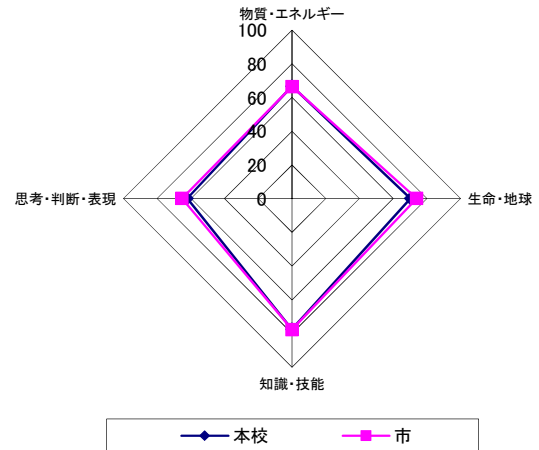
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○正答率が83.5%で、市の平均を5.8ポイント上回っている。</p> <p>○全ての問題で、市の平均正答率を上回っていた。特に、2つの文字を使って表された式で、一方の文字の値から他方の文字の値を求める問題の正答率は、13.4ポイント上回っていた。</p>	<p>児童に苦手な分野を確認させ、教科書巻末の「6年間の算数の総まとめ」で補充的学習ができるようにする。復習用教材をプリントして常に用意しておく、それも有効活用していくなど、個に応じた指導を継続していく。</p> <p>・日常生活の場面で分数を用いる問題を解決する活動を通して、意味を理解できるようにしたり、グラフを観察・把握する活動を充実させていく。</p>
図形	<p>○正答率が81.5%で、市の平均を3.1ポイント上回っている。</p> <p>○ひし形の面積を求める式を選択する問題では、正答率が市の平均正答率を12.9ポイント上回った。</p> <p>○底面積と高さから角柱の体積を求める問題では、正答率が市の平均正答率を11.2ポイント上回った。</p> <p>●正方形の紙を二つ折にし、切って開いてできる模様を考える問題では、正答率が市の平均正答率を、7.3ポイント下回った。</p>	<p>・児童に苦手な分野を確認させ、教科書巻末の「6年間の算数の総まとめ」で補充的学習ができるようにする。復習用教材をプリントして常に用意しておく、それも有効活用していくなど、個に応じた指導を継続していく。</p> <p>・各学年において、具体物を操作しながら体験的に学ぶ機会を多く取り入れていく。図形を識別する感覚的な理解だけでなく、問題を解く筋道を立てる論理的な理解につながるように授業を工夫していく。</p>
変化と関係	<p>○正答率が59.7%で、市の平均正答率を1.0ポイント上回っている。</p> <p>○面積と人数の割合から混み具合を考察する問題では、市の平均正答率を1.7ポイント上回った。</p> <p>○速さの単位の関係を理解し、分速から秒速や時速を計算する問題では、市の平均正答率を0.4ポイント上回った。</p> <p>○百分率をもとに割引後の値段を求める式を選ぶ問題では、市の平均正答率を1.0ポイント上回った。</p>	<p>・社会や理科などの他教科や日常生活に関連付け、人口密度や代金を求めるなど具体的に活用をする場を設定し、単位量あたりの大きさの計算の習熟をさらに図っていく。</p> <p>・速さ・道のり・時間の関係を十分に理解させ、目的に応じて秒速や時速に変換する有用性やその計算の仕方を理解できるように、計算問題を十分に行わせて習熟を図っていく。</p>
データの活用	<p>○正答率は、昨年度が64.9%であったのに対し、今年度は70.1%であったので、昨年度よりも5.2ポイント上回っている。</p> <p>○表から平均を求める問題では、市の平均正答率よりも、1.0ポイント上回っていた。</p> <p>○平均から全体量を推測する問題での正答率は低めであるが、市の平均正答率よりも、2.3ポイント上回っている。</p> <p>●ヒストグラムの特徴をもとに説明をする問題では、市の平均正答率よりも、6.9ポイント下回っていた。</p>	<p>・朝の学習や宿題等で、平均やデータの見方についての復習問題に多く取り組ませ、学習内容の理解が確実なものとなるように継続して指導していく。</p> <p>・様々なデータやグラフに触れさせ、内容を読み取る問題に多く取り組ませることで、データの内容を正しく理解する力を育成していく。</p>

宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	66.7	66.5	66.3
	生命・地球	70.2	74.0	72.6
観点別	知識・技能	77.5	77.6	78.2
	思考・判断・表現	62.2	65.3	63.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○正答率は66.7%で、市の平均正答率を0.2ポイント上回っている。</p> <p>○「ふりこのきまり」は、全ての問題で市の平均を上回っている。</p> <p>「電流のはたらき」では、コイルについての理解が市の平均を27.1ポイント上回っている。</p> <p>●「物の燃え方」では木が燃えたときの、かんの中の各気体の割合についての理解をみる問題では、市の平均正答率を15.6ポイント下回っている。</p> <p>○●「物のとけ方」では、水溶液の理解は、市の正答率を14.1ポイント上回っていたが、ろ過の仕方は8.2ポイント、結果の表から溶け方の違いを読み取ることについては6.9ポイント下回った。</p>	<p>・苦手な分野を確認させて、復習プリント等を活用し、補充的学習ができるようにする。</p> <p>・具体的な操作や観察などを通して、確かな知識として定着させる機会を増やす。</p> <p>・実験の結果を整理する際には、児童からの意見を積極的に吸い上げ、考え合う・話し合う時間を確保して思考を深める。</p> <p>・実験の結果から導かれた知識については「実験から分かったこと」として「全体のまとめ」を教師が丁寧に言い、知識の定着を図る。</p>
生命・地球	<p>●正答率は70.2%で、市の平均正答率を3.8ポイント下回っている。</p> <p>○「動物のからだのつくりとはたらき」では、消化についての理解が市の平均を4.0ポイント上回っている。</p> <p>○「月と太陽」で何を太陽と地球に見立てるかシュミレーションの理解は、市の平均を4.5ポイント上回っている。</p> <p>●「植物のつくりとはたらき」「生物とかんきょう」では全ての問題で市の平均正答率を下回っている。</p>	<p>・習得させるべき知識を明らかにし、学習内容の定着を図る。</p> <p>・児童の興味・関心を引き出し、目的を明らかにして、実験に取り組めるようにする。</p> <p>・日常的に理科に関する番組やニュースを紹介して、興味を広げる。また、一つの事象から多くの事象に関係が広がっていくことを教師側が意識して取り上げる。</p>

宇都宮市立御幸が原小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
協働的な学びで思考力・表現力を育てる授業作り	課題意識が高まる教材と問題との出会い、発問の工夫(導入の重視) 活動内容に応じて、ペアやグループなど学習形態を工夫し、協働して課題に取り組む態度を育成	「グループへの話し合いに自分から進んで参加している」の肯定的回答割合は、全体として市の平均を下回る傾向が見られた。
個に応じた指導と学習内容の定着を図る指導の充実	授業での「めあて」「まとめ」「振り返り」の提示とその活動の工夫 分かりやすい板書とノート指導の工夫 習熟度別学習や少人数学習、TT、朝の学習時の担任外の個別指導等の効果的な実施	「学習に対して自分から進んで取り組んでる」の肯定的回答割合が2・4・5・6年生は7割程度で、市の平均も下回った。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	4月に「家庭学習の手引き」を各家庭に配付し、学年に応じた家庭学習の時間の目安や内容の提示と啓発	宿題への取り組みについては全体として、市の肯定的回答と同程度であったが、「計画を立てて家庭学習をしている」「復習しているやテストの間違いをやり直している」といった質問での肯定的回答が低い傾向が見られた。
問題や文章の意図を手掛かりに、自分の考えをもち、それを分かりやすく表現する力の育成	自己肯定感を意識した授業を展開するとともに、多様な学習形態による友達との話し合いで、自分の考えをもち相手に伝える活動を多く経験させることで、自信をもって自分の考えを相手に伝えられるようにする。 各教科において、学習のまとめや振り返りの活動を充実させ、自分の考えを書いて表現する機会を多く設定する。	国語の「書くこと」の正答率は市の正答率を3.4ポイント上回った。指定された長さや条件で書くことや自分の意見と理由を明確にして書くことは定着してきている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

次年度は「家庭学習強化週間」を年2回設定する。特に1回目は5月に行い、家庭学習時間の周知や適切な学習内容を指導するとともに、家庭へも協力を呼びかけ啓発していきたい。
既習漢字を書く問題に課題が見られたので、次年度は全年「漢字オリンピックテスト」を実施し、意欲をもたせるとともに朝の学習や宿題等での習熟を一層図っていきたい。